

## 120817 アシナガバチ

今回は、林道脇の茂みで見つけた「アシナガバチ」とその「巣」を紹介します。  
ササの莖に固定された巣で、ハチの種は「キボシアシナガバチ」です。

さて、この「キボシアシナガバチ」…

体長は2 cm弱と小型種で、街中では非常に少なく、林縁部で見かけることが多いです。  
巣は地表から1～2mの枝や葉の裏などに作られますが、見かける機会は少ないですね…

本種と「ヤマトアシナガバチ」の巣は育房の“ふた”が黄色でよく目立ちます。

また、大きな巣でも育房数は100房を超えることは少なく、働きバチも十数匹を超えることはないそうです。

今回出会った巣は、育房数は30房くらいで、働きバチは3匹でした。

(もちろん他に狩りに出ている働きバチも何匹かいるのですが…)

今回の撮影では、巣から20 cmくらいまでカメラを近づけて撮影しましたが、実はこのハチ、攻撃性は他種と比べてやや強く、剪定作業中などに刺傷被害が発生することがあるのです。

(細心の注意を払って撮影しています。ちびっ子は決して真似しないでくださいね。)

それでは、参考までに「アシナガバチ」の暮らしぶりに触れておきましょう。

凍てつく森の中で越冬する女王バチは、3月下旬～4月上旬頃に目覚め、単独で巣作りを始めます。

巣の育房室に産卵してから孵化するまでは約20日、幼虫期は約10日、サナギ期は約15日を要するので、最初の働きバチ(ワーカー)が誕生するのは6月になってしまいます。

この50日間ほどの間、女王バチは狩り、子育て、掃除、増築、巣の防衛などの仕事をすべて、たった1匹でこなさなければならないのです。

(のんびりと巣内に横たわって至れり尽くせりの「女王様」、というイメージとは全然違うのです…)

当然、この時期は危険も多く、7割ほどの巣は夏を迎えられずに崩壊してしまうと言われています。(女王バチの死亡、アリやスズメバチの襲撃など…)

写真を見ると、巣をササの莖に固定している部分が黒光りしています。

女王バチは出かける前にこの部分にお尻をこすりつけているからです。

これは腹端にある分泌腺から、アリの嫌う忌避物質を出して塗りつけているのだそうです。  
お出かけ前に「ちゃんと鍵をかけている」のですね。

「アシナガバチの寿命はどれくらい？」と質問されることがありますが、巣が大きくなった夏ごろには「女王バチ」は役割を終えて死んでしまいます。

その頃の巣には幼虫の「新女王」や「オス」がいて、秋になると働きバチは役割を終えて死んでしまい、「新女王」と「オス」は交尾相手を求めて旅立っていくのです。

(巣の利用はこれで終了です。翌年にまた使われるということはありません。)

そして交尾した「新女王」は越冬、「オス」は交尾後に死んでしまうのです…

最後にもう一度写真を見てください。

2箇所の育房室から、可愛らしい幼虫の顔が見えていますね！！



